



@心の支援課

長野県教育委員会事務局 心の支援課
長野市大字南長野字幅下692-2
電話番号：026-235-7436

令和7年度 不登校児童生徒等の学びの継続支援 に関する懇談会



座長 荒井 英治郎 先生

信州大学教職支援センター准教授

第1回 令和7年6月18日(水) オンライン開催
第2回 令和7年10月15日(水) オンライン開催
第3回 令和8年1月29日(木) オンライン開催

構成員

近藤 守 × 酒井 秀樹 × 小松 亨 × 村上 陽一

市町村教委連絡協議会会長 上田市教育長 塩尻市教委教育支援センター主任 信州フリースクール居場所等運営者連絡協議会代表

高坂 由美子 × 田中 和恵 × 甘利 由美恵 × 成澤 乃彩

塩尻西部中学校長 箕輪中部小学校長 不登校児を応援する保護者の会チャレンジP-Smile顧問 東京学芸大学院生
(敬称略)

本懇談会は、不登校が長期化している児童生徒が自分らしく学び続けられるための支援の充実を目指し、令和3年度より開催しています。

不登校支援に関わる多分野の有識者が参加し、現場の声を踏まえた支援策・施策となるよう意見交換を重ね、教育支援センターの機能拡充やアウトリーチ支援、オンライン学習、フリースクールとの連携など、多様な学びの充実に向けた議論がなされています。懇談の成果は年度末に「はばたきvol.1～3」などの資料にまとめられ、県内の支援体制づくりを活かされています。家庭・学校・地域が連携し、子ども一人一人の学びを尊重する仕組みづくりを進めるための重要な場となっています。



第1回懇談会(6.18)の主な議題と協議内容

1. 文部科学省からの情報提供

不登校支援に関する法令等の説明(文科省生徒指導室室長 総崎由希氏)

2. 長野県の取組報告

心の支援課：不登校児童生徒等の学びの継続支援事業について

次世代サポート課：信州型フリースクール認証制度の取組状況

3. 意見交換(主な論点)

論点①：家から出ることができない児童生徒への支援

田中委員：校内教育支援センター設置の意義と人員配置の現状

甘利委員：佐久市の「ハートフルフレンド」事業によるアウトリーチ支援の紹介

成澤委員：支援員の配置と教職員との連携の現状、情報共有の在り方

村上委員：つながりのタイミングの重要性、情報・交通・社会的視線の壁

論点②：支援者間の連携

小松委員：学校と校内教育支援センターやフリースクール等との連携、コーディネーターの必要性

高坂委員：塩尻市のサポートルームの運営実態、地域貢献活動によるつながり支援

近藤委員：学びの多様化と社会的自立の視点、制度の柔軟な解釈の必要性

意見交換と議論の流れ

1. 家から出られない児童生徒への支援

- ・ 小学校低学年の不登校が増加する中、校内教育支援センターの支援員の配置がまだ十分ではないことが課題として挙げられました。支援員がいることで子どもが安心して登校できるようになる事例も報告されました。
- ・ 佐久市の「ハートフルフレンド」によるアウトリーチ支援が紹介されました。支援員が家庭へ訪問し、ゲームやスポーツなどを通じて子どもと関わることで、外部とのつながりを築いています。これは学校に通えない子どもにとって、外部との貴重な接点となっています。
- ・ 保護者支援の視点として、保護者自身も学校に足を運ぶことに心理的な負担を感じていることが共有され、保護者同士のつながりや、学校との関係づくりの工夫が求められていることが指摘されました。

2. 支援者間の連携のあり方

- ・ 学校や教育支援センター、フリースクールなど、支援の場が多様化する中で、各所を繋ぐコーディネーターの存在が連携の鍵になると指摘されました。学校だけでなく、教育支援センターの職員が支援会議を主導する取組も始まっています。
- ・ 情報共有の課題として、校内の支援員と教職員の間で、児童の様子を共有する仕組み（記録ノートなど）があるものの、活用が十分でない現状も報告されました。
- ・ 塩尻市では、地域貢献活動や体験型講座を通じて、学校に来づらい子どもが地域とつながる機会を得ている事例が紹介されました。SNS（Instagram）を活用した情報発信も効果を上げています。



3. 「つながり」の意味と支援の方向性

- ・ つながりたいけどつながれない子への配慮としては、関わる適切なタイミングを見極めることが重要であり、支援者が先に保護者とのつながりを充実させていくことで、子どもへの支援が進むケースもあります。
- ・ 不登校の捉え方の変化については、「学校復帰」ありきではなく、「社会的自立」を目指すためにその子にとって必要な支援が求められているという認識が共有されました。学びの場は学校だけでなく、地域や民間の場も含めて多様であることが必要であるという意見が多く出されました。

懇談のまとめ（荒井 英治郎 座長）

- ・ 支援の場の居心地やプログラムの質、校内支援のノウハウ共有の必要性
- ・ 支援者間の連携強化と情報共有の仕組みづくり
- ・ 「登校復帰」ではなく「社会的自立」を目指す不登校支援へ

この懇談会では、「不登校＝問題行動」ではなく、「その子らしい学びと成長を支える」という視点が強調されました。今後は、子どもや保護者の「つながりたい」という思いに寄り添う姿勢や、校内外の支援者との連携を意識した情報共有と協働、子ども一人ひとりの状況に応じた柔軟な対応と居場所づくりについて考えていく必要が示唆されました。

下記ホームページに、令和3年度から今回までの懇談会の要旨および提示資料などを詳しく掲載しています。不登校の現状や支援の方向性について、これまでどのように議論がなされ、県の支援体制づくりに活かされてきたのかを見渡すことができます。また、いじめ問題や不登校支援に関する情報を多数掲載していますのでご覧ください。



不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会／長野県教育委員会

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kokoro/shido/ijime/manabinokeizokushienn.html>